

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	呼子町立呼子小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	44	47	52	42	56	48	2	291	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付ける児童の育成  
～算数科の指導と評価の工夫・改善を中心に～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科  
児童の理解の程度に差が出やすい教科であるため

(2) 年次ごとの計画

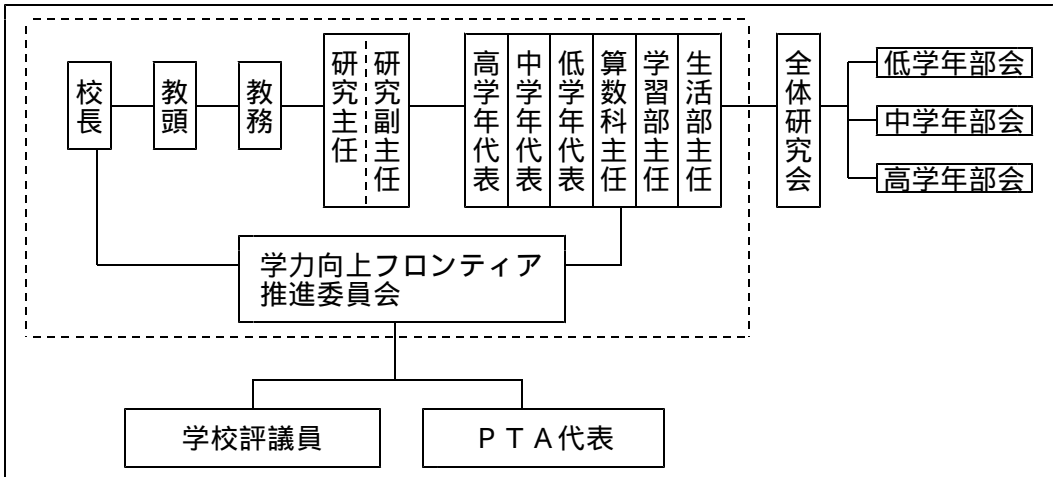
平成14年度	<p>テーマ 生きる力を育む教育の創造 ～確かな学力の定着に向けた指導と評価の工夫・改善～</p> <p>仮説 形成的評価や自己評価を学習過程において効果的に位置付け、次の時間の学習やめあてを明確にする主体的な学習活動にしていけば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容 算数科を中心とした評価規準の策定。 児童が主体的に取り組む指導法と形成的評価や自己評価などの工夫・改善。 個に応じる指導のための少人数指導の工夫。 算数科を中心とした、発展的な学習と補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発。</p> <p>研究方法 本校における算数科の各単元ごとの評価規準を作成し、実践を通して4観点ごとの見取りと評価を行う。 形成的評価を取り入れ、学習の見通しがもて自己評価につながる手引書を作成し活用していく。 学び方の違いによる学習適性別指導や学習スピードの違いによる習熟度別指導を取り入れた少人数指導を工夫していく。 発展的な学習と補充的な学習の教材開発を行い、単元の中に位置付けて指導していく。</p>
--------	---

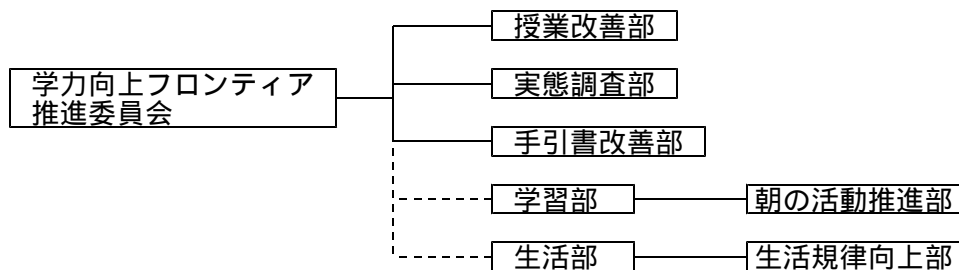
平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付ける児童の育成 ～算数科の指導と評価の工夫・改善を中心に～</p> <p>仮説 算数科における4つの評価観点にそった指導と評価の一体化を図る工夫・改善、少人数指導の工夫・改善、補充的な学習や発展的な学習の教材開発による指導の工夫・改善を行っていけば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。</p>
--------	---

	<p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導をしていくために、児童の実態を十分把握し、少人数指導体制を整え、授業の工夫・改善を図っていく。</p> <p>実施教科・・・算数科          実施学年・・・全学年          実施形態・・・学習適性別少人数指導、習熟度別少人数指導</p> <p>(2) 授業実践を通して、児童と教師の評価規準の共有化につながり、児童の振り返る力を育てるような手引書に工夫・改善していく。</p> <p>(3) 個に応じた指導をしていくために、補足的な学習や発展的な学習の教材開発を行い、単元の中に位置づけた指導を行っていく。</p> <p>(4) 診断テストの実施により児童の学習到達度を診断し、学年の枠を払った講座制による特設指導を開設することで、個に応じる指導を行っていく。</p> <p>(5) 家庭学習の充実に向けた、学習の仕方や習慣化の指導の工夫・改善を学習課題の見つけ方や学習ノートの使い方、学習時間の設定などについて、家庭との連携を図りながら進めていく。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を身に付ける児童の育成          ~算数科の指導と評価の工夫・改善を中心に~</p> <p>仮説</p> <p>算数科における4つの評価観点にそった指導と評価の一体化を図る工夫・改善、少人数指導の工夫・改善、補足的な学習や発展的な学習の教材開発による指導の工夫・改善を行っていけば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導をしていくために、児童の実態を十分把握し、少人数指導体制の充実を図るとともに、授業の工夫・改善に取り組む。</p> <p>実施教科・・・算数科          実施学年・・・全学年          実施形態・・・学習適性別少人数指導、習熟度別少人数指導</p> <p>(2) 授業実践の中で効果的に手引書を活用することにより、児童の振り返る力を伸ばし、また、児童と教師の評価規準の共有化ができるようにする。</p> <p>(3) 個に応じた指導をしていくために、補足的な学習や発展的な学習の教材開発を続け、単元の中に位置づけた指導を行っていく。</p> <p>(4) 診断テストの実施により児童の学習到達度を診断し、学年の枠を払った講座制を充実させることで、個に応じる指導を行っていく。</p> <p>(5) 家庭学習の充実に向けた、学習の仕方や習慣化の指導の工夫・改善を学習課題の見つけ方や学習ノートの使い方、学習時間の設定などについて、家庭との連携を図りながらさらに進めていく。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制





\* 今年度は学力向上フロンティア推進委員会の下に授業改善部、実態調査部、手引書作成部の3つの部を作り、それぞれの部で研究を深めることができるように改善した。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1) 各単元における前提・事前テストを作成し、実施することによって児童の実態を十分に把握できたため、効果的な少人数指導を行うことができた。
- (2) 手引書改善部を中心に、算数科手引書の内容を改善し、児童の学習の振り返りや単元の形成的評価に役立てることができるようになった。今年度で全学年全単元分を作成することができたので、来年度からはさらに有効活用できるようになった。
- (3) 今年度は、各学年最低一単元において、補充・発展の研究授業を行い、補充・発展の授業のあり方を探り、教材開発を行うことができた。
- (4) 2年生は単独で、3年生以上は、「3、4年」グループ、「5、6年」グループで学年の枠を払った講座制のシステムを案出し、個に応じた指導体制を行うことができた。
- (5) 生活規律向上部を中心に、家庭生活の状況をアンケート調査し、児童の家庭での実態を把握することができた。「ひとり立ちの点検表」としてPTAとともに取り組むことにより、テレビやゲームの時間を調整して、家庭学習への取り組みを見直すようになった家庭もある。

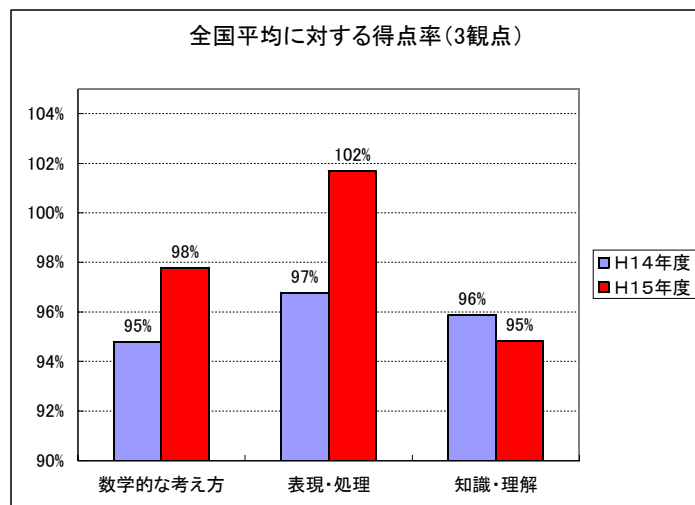
### (6) 昨年度との比較データ

#### ・CRTテスト

平成14年度と15年度の結果を右のグラフに表している。これは、全国の平均得点率に対する本校の得点率（全国平均を100とした場合の本校平均の割合）を表している。

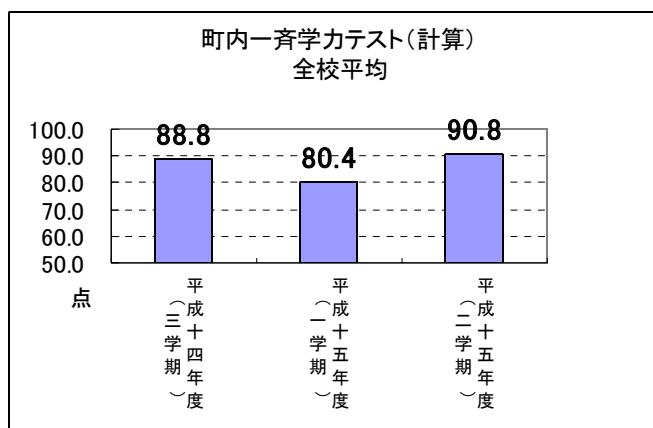
知識・理解はほぼ横ばいだが、数学的な考え方や表現・処理は昨年度を上回っている。特に表現・処理の伸びが著しい。これは町内一斉学力テストに向けて、全学年基礎計算力の習熟に力を入れたことや、習熟度別少人数

学習を行うことによって、習熟が不十分な児童に対する個別指導ができる体制を整えたことが理由として挙げられる。



### ・町内一斉学力テスト

昨年度3学期から、町内一斉学力テストを行っている。これは、漢字の読みと書き、基礎計算の3種類が行われる。問題は町内の小・中学校の教諭が作成し、町内で一斉に行うものである。休み中に類似問題を学習させ、休み明けにテストをする。休み中の学習の目標になるようにというねらいもある。



## 2. 今後の課題

- (1) CRTテストによると「知識・理解」や「数学的な考え方」はまだ全国平均に達していない。これら2つの領域を伸ばすために、これまでの研究を生かしつつ、少人数クラス編成の工夫、家庭学習の定着などを図っていきたい。
- (2) 生活アンケートの実態を知っても改善されない家庭があるので、更にPTAとの連携を強め、懇談会や学級通信、家庭訪問などを行って、生活改善に努めるよう協力を依頼する必要がある。
- (3) 町内一斉学力テストは算数に関しては主に表現・処理の領域についてテストを行っていたが、今後、他の領域についてもテストを行うのかを参加校で協議する必要がある。
- (4) 今年度で少人数指導体制の確立と、それに伴ったカリキュラムの作成ができた。フロンティア事業が来年度で終わることになるが、その後も継続した実践ができるよう担当学年や単元の精選等について、少人数指導体制を思考する必要がある。

## 学力等把握のための学校としての取組み

標準学力検査の実施(年2回)  
町内一斉学力テストの実施(年3回)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
- 町内小・中連携教育全体研究会
    - ・期日：6月12日(水)午後2時～午後4時30分
    - ・学年：5、6学年
    - ・対象：町全小・中学校教員
    - ・内容：講座制の取組について参観、研究協議
  - 第1回公開授業研究会
    - ・期日：6月23日(水)午後2時～午後4時30分
    - ・学年：2学年、3学年
    - ・対象：管内学校教員・保護者
    - ・内容：補充的・発展的学習の授業参観、研究協議
  - 第3回公開授業研究会
    - ・期日：11月18日(火)午後2時～午後4時30分
    - ・学年：1学年、5学年
    - ・対象：管内学校教員・保護者
    - ・内容：補充的・発展的学習の授業参観、研究協議

### 研究成果普及のためHP作成

<http://www.saga-ed.go.jp/school/edq13401/>

- ・公開授業の学習指導案
- ・授業の写真
- ・フロンティア研修会での発表要旨
- ・各学年の各单元ごとの手引書例
- ・各学年の各单元ごとの前提テスト及び事前テスト問題例

### フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

- ・郡教頭会で、少人数授業、講座制授業の取組を発表
- ・他のフロンティア校への学習指導案や取組の説明(2校)

- 
- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無